

CMSで サクサク更新 ウェブサイト

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ

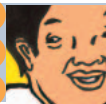


text: 増田"maskin"真樹 illust: 小松恵

第5回

Movable Typeを使って情報配信サイトを作る① Blogシステム「Movable Type」のインストールと日本語化

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



Blog: 随時更新の時系列情報サイト

今回から紹介するMovable Typeは、ご存じウェブログ、通称Blogを構築するシステムだ。記事や画像、音声などのコンテンツを手軽に更新できる特徴を持つ。デザインテンプレートも自由に変更できるので、さまざまなウェブサイトへの適用が考えられる。この連載では、更新が滞りがちな企業サイトにMovable Typeを導入し、低負担で新鮮な情報を配信できるサイト作りを提案していく。

送信することでBlogに投稿できるようになる。携帯電話で撮った写真をそのままメールでBlogに投稿できることから、同様のサービスはモバイル + Blogで「Moblog」と呼ばれている。

また、サンフランシスコの企業が提供する「audblog」[URL02](#)では、電話から吹き込んだメッセージをファイルに変換して、自動的にBlogに投稿するサービスを月3ドルで提供している(今のところ投稿する電話番号は米国のみ)。

手軽な更新による 即時性が売りのBlog

日本でも「Blog」という名前を聞くようになったが、まだまだ“？”という人の方が多いだろう。Blogはもともとウェブで起こった日々のニュースを日記風に紹介していくことから「Web」+「Log」で「Weblog」と呼ばれていたが、今では省略されてBlog(ブログと読む)と呼ばれるようになった。日本ではようやく数百個くらいのBlogが動き出した模様だが、米国などでは毎日数千ものBlogが誕生して、日々更新されていると言われている。

Blogには記事に対して第三者がコメントを書き込めるコミュニティー的な機能

や、TrackbackというBlogの記事同士を“関連付け”する機能など独特な機能があるが、なんといってもBlogのだいご味は、ウェブページから手軽にコンテンツを登録・公開できる即時性につける。

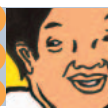
各種サービスで広がる Blogの世界

また、コンテンツの発行を支援するためのさまざまなプラグイン機能やASPサービスが、Blogを一層魅力的なものにしている。

たとえば、技術者の平田大治氏が実験的に提供するASPサービス[URL01](#)では、アカウントを登録して写真画像をメールで

Blogを企業サイトに使えば 効率化が図れる!?

さて、そんなBlogは企業サイトに使えるのだろうか？ 答えはYESである。Blogのシステム(ツール)にはさまざまな機能が搭載されていて、使いようによってはあらゆるウェブサイトに応用できるのである。何らかの情報を迅速かつ手軽に公開したいニーズがあれば、Blogの特性が必ずマッチするはずだ。



本誌イチオシ Blogシステム「Movable Type」

Movable Typeの概要

今回から数回にわたって解説するのは、今一番人気のBlogシステム「Movable Type」だ(図2)。本誌にも何度が登場したTrott夫妻が開発したBlogツールで、システム環境設定、デザインテンプレート、プラグイン機能拡張などをさまざまな部分でカスタマイズできる。

また、アカウント管理があるので、複数の担当者が記事を投稿できる。記事を下書き状態で投稿できるので、責任者が確認してから公開したり、公開してよいタイミングまでは下書き状態のまま保存したりといったこともできる。

企業サイトにとって重要になってくる“デザイン”も「テンプレート」によって自由にカスタマイズができる。記事とデザインテンプレートは完全に分離されていて、事前にデザインテンプレートを用意しておけば、記事を投稿すると自動的にテンプレートが適用される仕組みになっている(図3)。テンプレートは、「トップページ」や「コンテンツページ」などセクションごとに複数用意しておくことができる。

もちろん前述したMoBlogやAudBlogなどの追加の機能 / サービスもインストールできるので、アイデア次第で、魅力的なサイトを作り上げることができるだろう。

自分のサーバーで動くか? という心配はいらぬ。Movable Type(以下、本文中はMTと記述)の動作条件は非常に緩いので、ほとんどのホスティングサーバーで問題なく動作するはずだ。記事を保存しておくデータベースにはMySQLやPostgreSQLなども利用できるのだが、この連載では特にインストールの必要がなく手軽に利用できるBerkeleyDBを利用する(サーバーのOSがウィンドウズの場合はBerkeleyDBは利用できないので注意してほしい)。

MTを動作させるためのサーバーの必要要件は次のとおりだ。問題なければ、早速Movable Typeを入手してインストールしてみよう。

- ・Perl 5.004_04以降がインストール済み
- ・独自CGIが動かせる環境
- ・25Mバイト以上の空きディスク容量
- ・FTPアクセス

① Movable Typeをダウンロードする

MTのファイルは、本家サイトから入手できるURL③。執筆時点での最新バージョンは2.63だ。非商用利用なら無料だが、商用の場合150ドル必要だ。

トップページの左上にある「Download」をクリックすれば、ダウンロードページが表示される。図4の画面の「Select the type of distribution you wish to do..」と書かれたプルダウンメニューでは「Full Version, with Libraries」を選択する。NameとEmail Addressは必ず入力しなければいけない。ページをスクロールしてライセンスを確認し、内容に問題がなければ「I accept the terms of this license agreement」のラジオボタンをクリックしてから「DOWNLOAD」ボタンを押そう。

「MT-2.63-full-lib.tar.gz」というファイル

図1 筆者のBlog
「METAMix! Maskin's Blog」



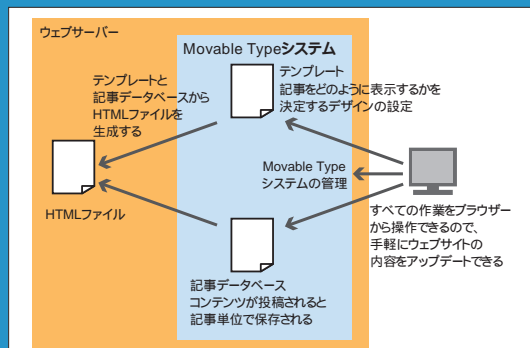
毎日、筆者の著述活動に関連する事柄を投稿しているBlog。デザインテンプレートを変更すればこんな感じにもできる。文中に登場したMoBlogやAudBlog以外にもさまざまな機能を追加している。

URL③ <http://www.metamix.com/>

図2 Movable Typeの記事編集画面



図3 Movable Typeの主な動作



Movable Typeを使うと、ブラウザから簡単に記事を投稿できるだけでなく、記事の編集、ウェブサイトの見た目の変更ですべてブラウザからできる。

投稿された記事にデザインテンプレートを活用して、インデックスページやカテゴリ別ページなどのHTMLファイルを生成する。

がダウンロードされるので、Lhasa や StuffItExpanderなどで解凍する。

② システム設定ファイルを編集する

解凍後のフォルダーには、図5のようなファイルが入っている。この中のルートに「mt.cfg」というファイルがあるので、テキストエディター(秀丸やWZEditor、JEdit、viなど)で開いてみよう(改行コードがLFで書かれているので、ウィンドウズのメモ帳で開くと正しく表示されないので注意してほしい)。

「## Movable Type configuration file [mt.cfg]」から始まるアルファベットで書かれた文書はMTの「システム設定」ファ

イルで、Blogがサーバーで動作するための各種設定事項を記述するファイルだ。サーバーの環境に合わせてこのmt.cfgの内容を編集する必要がある。すべて英語のファイルなので取っつきにくい、基本的に既存の文字列を置き換える程度の変更で済むので心配ない。

それでは早速、mt.cfgを編集してみよう。

CGIPath : CGIディレクトリーのURL

ファイルの冒頭にある

```
CGIPath http://WWW.YOUR-SITE.COM/PATH/TO/MT/
```

は、管理ツールCGIやライブラリーなどのMTのシステムを保存する場所をURLで指定している。これを、

```
CGIPath http://www.example.jp/cgi-bin/mt/
```

のように指定する。URLの末尾に「/」(スラッシュ)を付けるのを忘れないこと。ここに示したのはあくまでも例で、実際には自分のウェブサイトのCGIが動作するURLを指定すること。普通に/cgi-bin/を使ってもいいが、MTユーザーの多くはCGIディレクトリーに「mt」などのサブディレクトリーを作って利用しているようだ。

DataSource : 記事データベースの場所

この設定は、よくわからなければ変更しなくてもよい。22行目にある

```
DataSource ./db
```

という設定は、記事が保存されるBerkeley DBのデータを保存する場所を、ファイルシステムのパスで示すものだ。Blogのすべてのデータが収められる場所に設定するか、アクセス制御などで保護するのがよい。

デフォルトのままだとCGIPathのディレクトリーにファイルが保存されることになる。変更する場合には「./db」の部分の文字列を、絶対パスで、またはCGIPathで指定したディレクトリーからの相対パスで指定する。

「パス」と「URL」

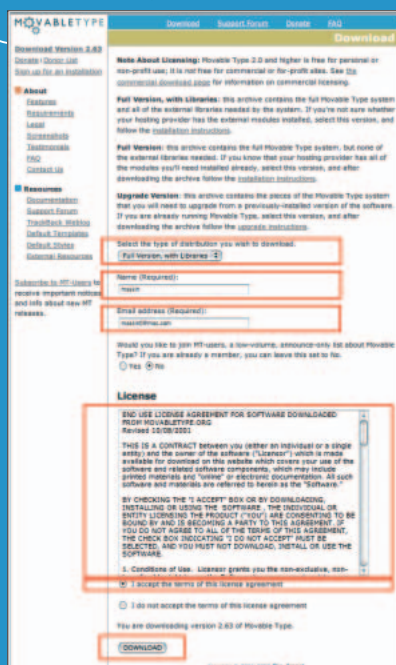
mt.cfgで設定する値には、ブラウザから見た「URL」としての値と、サーバーから見た「ファイルシステムのパス」としての値の2種類がある。どちらの値を設定するのかを示してあるので注意してほしい。

また、「絶対パス」と「相対パス」という表現を使うが、意味がよくわからない場合は次のURLなどで指定の違いを理解してから読み進めてほしい。

All About Japan

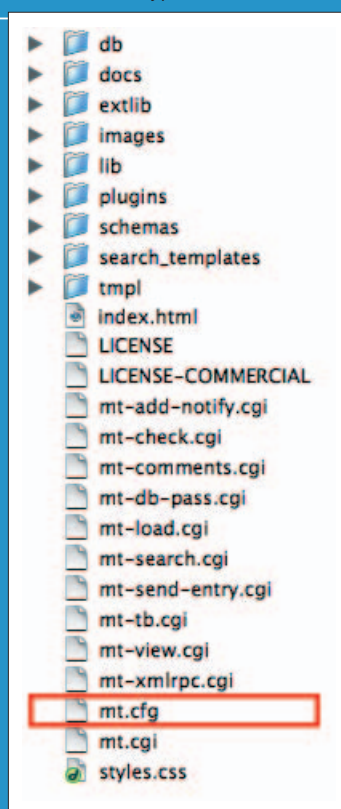
URL <http://allabout.co.jp/computer/cgiperl/closeup/CU20020826A/>

図4 Movable Typeダウンロードページ



アップグレード版やライブラリーのない軽量バージョンもあるが今回はライブラリーを含めたフルバージョンをダウンロードする。

図5 解凍した Movable Typeフォルダーの中身



たくさんファイルがあるが、mt.cfgファイルを編集するだけで基本設定は終了する。

StaticWebPath : MT が使う画像などのファイルのURL

次は、35行目の

```
# StaticWebPath /path/to/static-files/
```

という行だ。この設定はMTの管理画面などに使われている画像などのファイルを置く場所をURLで示す。変更しなければCGIPathで設定したものと同じ値が使われる。

行頭にある「#」はこの行をコメントアウトする記号なので、変更する場合はまずこの「#」を消してこの設定が機能するようにする。そして、新しい値を指定する。

システムによってはセキュリティ上の問題でcgi-binディレクトリーに画像ファイルを置いてウェブから見られないように設定されている場合もあるので、本連載ではStaticWebPathをcgi-binとは別のディレクトリーに設定して話を進める。ここでは

```
StaticWebPath /mt-static/
```

のように設定しておこう。

メール関連の設定

次の設定はメール関連だ。MTは、記事や記事に対するコメントが投稿されたとき

に電子メールで知らせることができる。次の2種類のどちらかのみを設定する。

サーバーでSendmailを利用できるならば、52行目の

```
# SendMailPath /usr/sbin/sendmail
```

の行頭にある「#」を消して、Sendmailのパスが正しいかどうかを確認しておく。

外部のSMTPサーバーを利用することもできる。この場合は、63行目の

```
# MailTransfer smtp  
# SMTPServer smtp.your-site.com
```

の行頭にある「#」をそれぞれ消して設定を有効にしてから、smtp.your-site.comの部分を自分の利用しているsmtpサーバーの名前に書き換える。

日本語を使えるようにする設定

198行目の

```
# NoHTMLEntities 1
```

の行頭にある「#」を消して設定を有効にする。

306行目にある

```
# PublishCharset Shift_JIS
```

の行頭にある「#」を消して設定を有効に

してから、次のように変更する。

```
PublishCharset UTF-8
```

これで、MTが生成するHTMLファイルの文字コードがユニコード(UTF-8)になる。

これで設定ファイルの編集は終了だ。mt.cfgファイルを保存しよう。

③ 日本語のランゲージパックを導入してアップロードだ

MTは標準で日本語を扱えるが、管理メニューは英語だ。日本語化キットを導入してメニューもすべて日本語にしよう。

日本語ランゲージパックは、MTの本家サイトに用意されている。トップページ左側の「Resources」にある「External Resources」リンクをクリックしよう。表示されるページの「Language Packs」にある「Japanese」リンクをクリックしてmt-ja.tar.gzをダウンロードする。LhasaやStuffItExpanderでファイルを解凍すると「mt-ja」とフォルダーができるので、中にあるファイルとフォルダーを次のようにしてMTのフォルダーにコピーすれば、ランゲ

CGIファイルのPerlパスについて

MTに含まれるCGIファイルではPerlの場所を/usr/bin/perlと指定しているが、サーバーの環境と合わない場合は、CGIファイルの記述を変更しなければいけない。

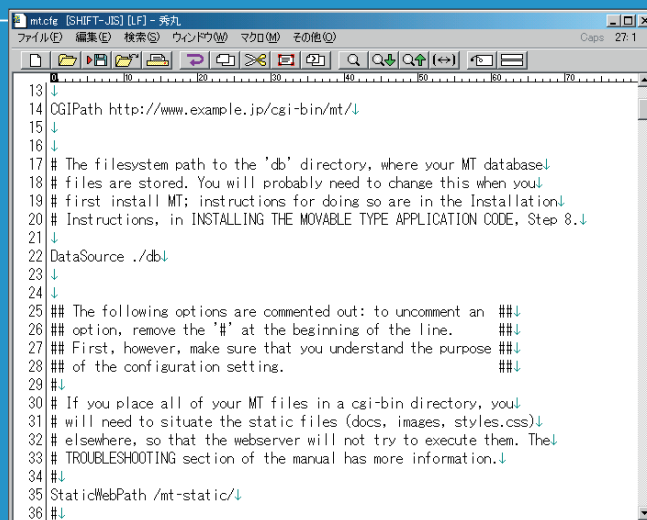
変更するファイルは、拡張子が.cgiの11個のファイルだ。これらのファイルをテキストエディターで開くと冒頭に次のような記述がある。

```
#! /usr/bin/perl -w
```

この/usr/bin/perlの部分をサーバー上のPerlのパスに書き換えておく。

Perlのパスを調べるには、サーバーのコマンドラインからwhereis perlと入力する。コマンドラインが使えない場合は、管理者に問い合わせよう。

図6 mt.cfgファイルの編集



今回はStaticWebPathをCGIPathとは別のディレクトリーに設定する

ージバックの適用は終了だ。

「ja.pm.utf-8」をextlib/MT/L10N/ディレクトリーにコピーし、ファイル名を「jp.pm」に変更する。

「lang-ja」フォルダーの中身をimages/lang-ja/ディレクトリーにコピーする。

以上で、サーバーにアップロードするファイルのすべての設定が完了した。

4 ファイルのアップロードとパーミッションの設定

ファイルのアップロード

FTPソフトを使ってファイルをアップロードすればいいのだが、MTのファイルやフォルダーは、図7のように2か所に分けてアップロードする必要がある。

マニュアルや管理画面で利用する画像ファイルやデフォルトテンプレートファイル

などは、mt.cfgの「StaticWebPath」で指定したURLに対応するウェブサーバー上の場所にアップロードする。

MTのシステムファイルとプログラム群（実際には、さきほどアップロードしたもの以外）は「CGIPath」で指定したURLに対応するウェブサーバー上の場所にアップロードする。設定ファイル「mt.cfg」もここに含まれる。

注意してほしいのは、mt.cfgでCGIPathとStaticWebPathに設定した値はURLとしての値なので、実際にFTPでアップロードするディレクトリーは異なる可能性があるということだ。

たとえば、FTPでアクセスした場合の/public_html/ディレクトリーがウェブサイトとして公開した場合のルートディレクトリー(/)になる場合には、StaticWebPathに/mt-static/と設定していても、実際には/public_html/mt-static/ディレクトリーにアップロードする必要がある。ウェブの公開

ディレクトリーには、/home/や/public_html/などのディレクトリーが使われることが多い。

データベースディレクトリーの作成

さらにここで、mt.cfgでDataSourceに設定したディレクトリーをウェブサーバー上に作成しておく必要がある。設定を変更していなければ、CGIPathで指定したディレクトリー(/cgi-bin/mt/)に「db」という名前でディレクトリーを作る。

パーミッションの設定

アップロードが完了したら、すべてのCGIファイル(拡張子が.cgi)にパーミッション(サーバー上での実行権限)を設定する必要がある。CGIファイルは後からアップロードしたファイル群に含まれている。FTPソフトなどを使って、パーミッションを

図7 Movable TypeファイルのFTPアップロード

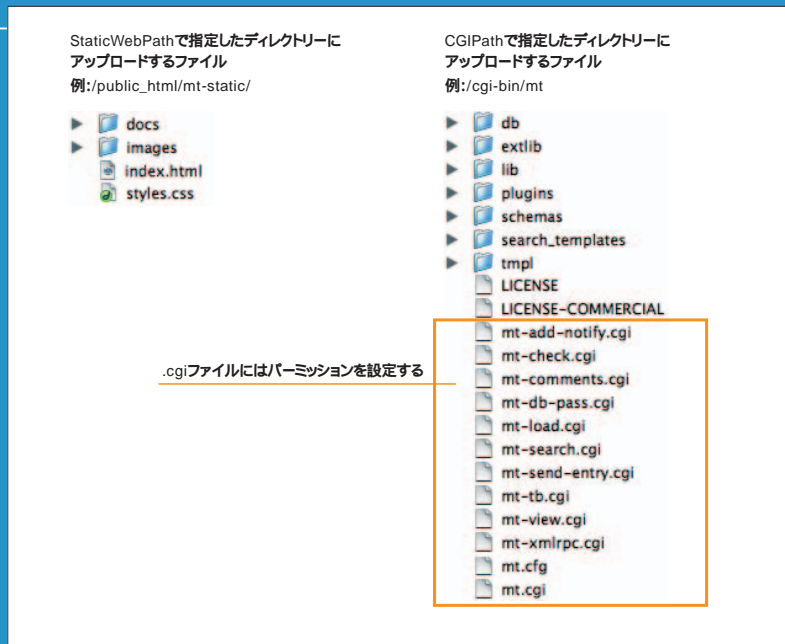
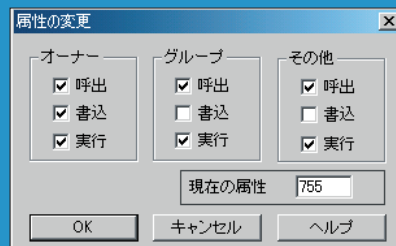


図8 CGIファイルのパーミッション設定



CGIファイルに関しては適切なパーミッション設定をしないと正しく動作しない。

755(所有者はすべての権限を持ち、グループとその他は読み込みと実行の権限を持つ)に設定する(図8)。

mt-load.cgiスクリプトの実行

アップロードとパーミッションの設定が終了したら、最後の処理をするスクリプトを動作させるために、ブラウザで次のURLを開こう。

http://[CGIPATHで設定したURL]/mt-load.cgi

設定がきちんとできていれば、「Done loading initial data! All went well」というメッセージが表示され、MTのインストールが完了するはずだ。ここまでの作業が完了したら、mt-load.cgiファイルは必要ないので、セキュリティ対策として必ず削除しておく。

⑤ 管理画面へのログイン、日本語化、ユーザー情報の変更

インストールが終了したら、早速MTの管理画面にログインしてみよう。URLは、CGIパスの中にある「mt.cgi」を指定すればいい。

http://[CGIPATHで設定したURL]/mt.cgi

無事ログイン画面表示されれば成功だ。ここではまだアカウントを作っていないので、インストール直後専用の疑似アカウント「Melody」とパスワード「Nelson」を指定してログインする(図9)。

ログイン直後は英語のままなので、右側のメニューから「EDIT YOUR PROFILE」をクリックしよう(図10)。ここでMelodyというユーザー名を自分の使いたいユーザーの名前にし、パスワードを変更したあと、

「Preferred Language」というプルダウンメニューで「Japanese」を選択する(図11)。最後に、「Save」ボタンをクリックすれば、日本語の表示に切り替わるはずだ。

駆け足でMovable Typeのセットアップを進めてきた。肝心のBlogを作って設定する部分は次回に持ち越すが、サンプルのBlogが設定されているので、それを試験的に編集してもらえれば概要がつかめると思う。

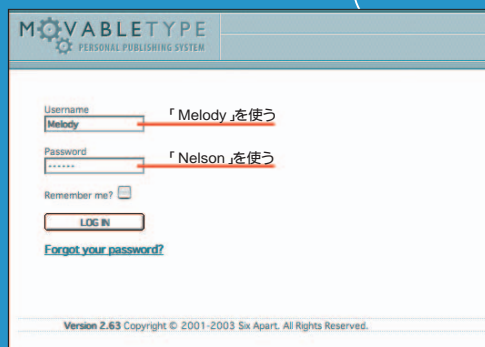
Moblog
URL http://moblog.uva.ne.jp/

audblog
URL http://www.audblog.com/

Movable Type
URL http://www.movabletype.org/

著者プロフィール
フリージャーナリスト兼情報デザイナー
maskin(増田真樹)
Blog : metamax.com

図9 Movable Typeの初期ログイン



最初だけデフォルトのユーザー名Melody、パスワードNelsonでログインしよう。

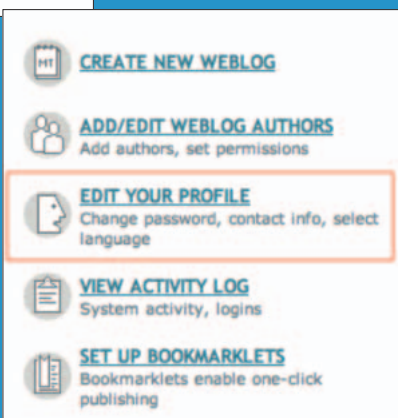
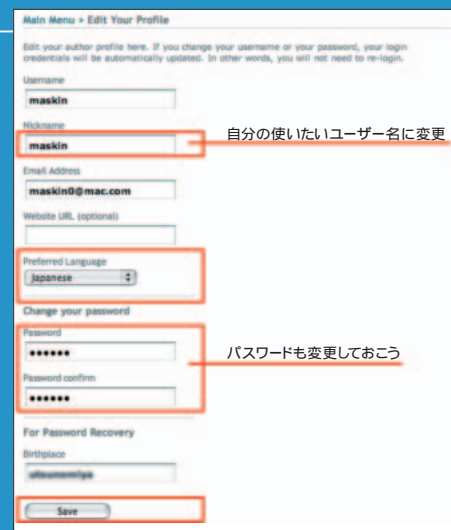


図10 まだ英語のメニュー

表示を日本語化するために、メニューから「EDIT YOUR PROFILE」をクリックしよう。

図11 ユーザープロフィールの設定画面



自分の使いたいユーザー名に変更
パスワードも変更しておこう

Preferred Languageを「Japanese」にして「Save」ボタンをクリックすれば、もう管理画面は日本語だ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp